

富山経済同友会

会報

2025.1月
No. 322



第7回企業経営委員会（会員企業訪問）（11月7日）

CONTENTS

- 海外経済視察報告会・12月会員定例会・懇親会 … 2
- 全国経済同友会代表幹事円卓会議 …… 3
- 第32回経済同友会中央日本地区会議 …… 4
- 第5回企画委員会 …… 4
- 第6回交流委員会 …… 5
- 第7回交流委員会 …… 5
- 第7回企業経営委員会（会員企業訪問）… 6
- 第5回ESG経営小委員会 …… 7
- TOYAMA KATARAI CAFÉ（人財活躍委員会）… 8
- スケッチオーデション（アントレプレナーシップ小委員会）… 9
- 5経済同友会教育担当委員会交流会 …… 11
- 第7回教育問題委員会（高知視察）… 12
- 第8回教育問題委員会 …… 13
- 第9回文化スポーツ・第6回地域創生合同委員会… 14
- （トピックス）インド経済訪問団… 15
- 第3回ウェルビーイング小委員会 …… 16
- 課外授業講師派遣 …… 16
- 教育講演会等講師派遣 …… 18
- リレーエッセイ^⑫（井深 亜希 氏）… 19
- 活動報告 …… 20
- （トピックス）広島経済同友会まちづくり委員会との交流会 … 22
- （トピックス）データサイエンス寄附講座のご紹介… 22
- 景気定点観測アンケート結果 …… 23
- 今後の予定 …… 23
- わが青春の1枚（相馬 淳一 氏）… 24

みんなで愉快地今年を振り返ろう

～ 海外経済視察報告会・12月会員定例会・年末懇親会 ～

12月3日(火)、令和6年を締めくくる12月会員定例会・年末懇親会をANAクラウンプラザホテル富山で開催。会員、来賓ら約200名が出席した。定例会前には、海外経済視察報告会も行った。

◆海外経済視察報告会

はじめに、第42回海外経済視察〔9月8日(日)～9月16日(月)、ドイツ連邦共和国視察〕について、交流委員会の伊東潤一郎委員長が報告した。

伊東委員長は、まず、今回の視察概要として、視察団メンバーや視察行程、視察テーマを紹介。総勢25名が参加し、ベルリン・ミュンヘンを軸に、ドレスデン・シュトゥットガルトを



伊東委員長

加えた4都市を巡り、「産業のDXやスタートアップ」「GX」「賑わいのあるまちづくり」に関する先進事例を視察したことを説明した。

そして、視察の詳細として、訪問先毎の視察内容を報告。日本国大使館やジェトロのブリーフィングにおいてドイツの最新事情について知見を得たこと、インキュベーションハブやミュンヘン工科大学のレクチャーにより欧州随一の活気あるスタートアップ・エコシステムの仕組み・仕掛けを学んだこと、地熱発電プロジェクトサイトの見学で環境先進国ドイツのGXに向けた革新的事業を体感したこと、そして、マイセン工房や電気自動車製造工場、生産技術・オートメーション研究所等を訪問しドイツのものづくり産業の伝統と革新を体感したこと、等々を紹介し、先進地のリアルな現場・声を見聞きすることで富山のものづくり・まちづくりにおける課題解決の貴重なヒントを得る、有意義な機会となったことを報告した。



◆12月会員定例会

報告会に続いて、12月会員定例会を開催。俳優の室井滋氏がボランティアでご出演くださり、北日本放送ラジオパーソナリティ 鍋田恭子氏、音楽家・ピアニスト 友井賢太郎氏もゲストにお招きし、今年1年を振り返った。

まず、鍋田氏が登壇し、北陸経済研究所理事長 沼田雅博氏とともに、今年の県内経済状況について振り返り、来年は物価も少しは落ち着き、良い方向に向かうのではないかと期待を込めて語った。



沼田 雅博 氏

続いて室井氏が登壇し、鍋田氏とともに今年あった出来事や、富山地鉄サービスの広告「電車で行って、ビール飲んで、バスで帰る。」「思い出も、人生も乗せて、走った。」



室井 滋 氏

の制作秘話やエピソードを披露し、会場は大いに盛り上がった。エッセイ集「ゆうべのヒミツ」の一節を友井氏のピアノ演奏をバックに朗読し、場面を想像させる迫力のある語りに、参加者はその世界観に一瞬で引き込まれた。また、会場では室井氏の書籍販売とサイン会が開催され、多くの参加者が列をなした。



◆年末懇親会

続いて年末懇親会を開催し、来賓に富山県から新田八朗知事、廣島伸一教育長、川津鉄三知事政策局長、南里明日香経営管理部長、山室芳剛商工労働部長、富山県市長会から藤井裕久会長（富山市長）をお招きした。

麦野代表幹事は、「今年は1月に能登地震が発生し、大変な年明けとなった。中東情勢の長期化や物価上昇があるものの、景気は緩やかな回復が期待されている。また今年は、選挙の多い年であったが、持続的な成長に向けた政治の安定と国際紛争の収束を期待したい。本年も残り僅かとなったが、当会の委員会活動も3月まで予定されている。引き続き積極的な参加をしていただきたい」と開会の挨拶を述べた。続いて来賓を代表して新田知事が挨拶し、藤井市長会会長の発声により、当会では恒例となった地酒で乾杯が行われた。



麦野代表幹事



新田知事

藤井市長会会長

閉会の挨拶で牧田和樹代表幹事は、「本日の定例会は、思考を変え、一年を明るく締めたいとの思いで企画した。今年は元日の地震から始まり、大変な一年となったが、起こっ



牧田代表幹事

たことは仕方がなく、経験したことを糧にし、次に繋げていければと思う。会員の皆さんと共に、来年こそ素晴らしい年を迎えようと誓い合う場として、この懇親会があると考えている。皆様にとって新年が素晴らしい一年になるよう祈念申し上げたい」と今年最後の懇親会を締めくくった。

人口減少対策などをテーマに兵庫県で開催

— 全国代表幹事円卓会議 —

2024年全国経済同友会代表幹事円卓会議が、11月25日(月)に、全国の各地同友会代表幹事をはじめ総勢134名が参加して、兵庫県神戸市の神戸ポートピアホテルで開催され、当会からは麦野英順代表幹事、牧田和樹代表幹事が参加した。

（公社）経済同友会 新浪剛史代表幹事の開会挨拶の後、開催地である兵庫経済同友会の井谷憲次代表幹事から歓迎の挨拶があった。

議事において今年度の全国経済同友会セミナー福井大会の決算案、来年度の全国セミナー（広島大会）の企画・予算案や再来年度の第38回全国セミナーの日程等が承認された。その後、IPPO IPPO NIPPON 能登半島支援活動の寄付申込状況についての説明がなされ、次いで来年4月に開会が迫る大阪・関西万博の進捗状況等について発表があった。

その後、「人口減少・人手不足下での多様な人材の活躍に向けて」のテーマで、（公社）経済同友会の岩井睦雄筆頭副代表幹事をモデレーターに、福井経済同友会の林正博代表幹事、中部経済同友会の宮崎直樹代表幹事、関西経済同

友会の永井靖二代表幹事、仙台経済同友会の川嶋輝彦専務理事から各同友会の問題意識や取り組み内容についての事例紹介が行われた。



来賓講演は、兵庫県立芸術文化観光専門職大学学長の平田オリザ氏が、「演劇で人づくり街づくり」と題して講演した。急激な少子化が進む但馬の悲願であった大学設置要請を受け、観光と文化・芸術の力で地域を元気にすることを目的に文化・観光の専門職を育成する大学を開校したところ、国内外から学生が入学し、城崎国際アートセンターと連携して地域課題の解決に取り組み、若者の定住にも貢献する人口減少対策の好事例として紹介された。

なお、会議に先立ち、日本で数少ない「音」の研究所「TOA ナレッジスクエア」、飛行艇の製作・修理工場の「新明和工業甲南工場」の視察があった。



若者がいきいきと暮らせる地域づくり

第32回経済同友会中央日本地区会議（甲府市）

11月8日(金)に山梨大学 大村智記念学術館において第32回経済同友会中央日本地区会議が開催された。「若者がいきいきと暮らせる地域づくり」を総合テーマに、中部地区10経済同友会から80名が参加し、当会からは麦野英順代表幹事、大橋聡司副代表幹事、伊東潤一郎常任幹事が出席した。

冒頭、山梨経済同友会の入倉要代表幹事が開会挨拶、続いて山梨経済同友会の長澤重俊代表幹事と雨宮潔副代表幹事から「シンヤマナシ実現に向けて～若者がいきいきと暮らせる地域づくり～」と題して問題提起が行われた。

雨宮氏は、「山梨県を一つの経済圏として、観光、農業、スポーツなどの事業体が連携し技術やノウハウを共有しながら新たな価値を創造する仕組み『エコシステム』の構築を目指す。」とした。

その後、各地同友会からの発表が行われ、当会からは大橋副代表幹事が、挑戦意欲のある人材を育成することを主目的としたビジネスプランコンテスト「スケッチオーデション」、アス

リートのセカンドキャリアやデュアルキャリアの支援を通じ、関係人口や将来人口増加、地域



経済の活性化を図るアスリート支援小委員会の活動、富山経済同友会の呼びかけにより2023年10月に発足した富山県庁周辺エリアマネジメント懇話会の活動を紹介した。

山梨大学学長で山梨経済同友会の中村和彦代表幹事が閉会の挨拶を行った。

その後、会場をサドヤワイナリーに移し、山梨大学の学生13名も参加し、懇親会が盛大に開催された。

なお、会議・懇親会に先立ち、JR 東海の山梨実験センターでリニア整備の概要説明を受け、リニア最新車両に乗車し、時速500キロでの浮上走行を体験した。

来年度以降の委員会編成について

～ 第5回企画委員会 ～

11月21日(木)、第5回企画委員会（大橋聡司委員長）を魚津商工会議所マルチルームにおいて開催し、委員6人全員が参加し、次年度以降の委員会編成の方向性について検討した。

冒頭、大橋委員長が「現状の課題を踏まえ、さらに充実を図る観点から再編案を取りまとめている」と挨拶を行い、さっそく議題に入った。

検討にあたっては、①委員会活動は本来どうあるべきか、それに対して②現行の委員会活動にはどのような課題があるか、これの課題解消を③委員会再編と④委員会



大橋委員長

運営方法の改善の両面から考え、また、⑤事業のスクラップ&ビルドについても検討を行った。

大規模な委員会の取扱いについては、会員のエンゲージメントへの配慮が欠かせないこと、委員会を選ぶ際のミスマッチを防ぐには、委員会の活動方針や事業計画などを早めにまとめて示す必要があること等、建設的な意見が次々と出され、活発な意見交換が行われた。



来年度の海外経済視察について協議

～ 第6回交流委員会 ～

11月20日(水)、第6回交流委員会（伊東潤一郎委員長）を事務局会議室において開催し、委員8人と中沖雄担当役員が参加、今年度の海外経済視察（行き先：ドイツ、期間：9月8日～9月16日）の振り返りと来年度の海外経済視察の訪問先等について検討した。

冒頭、伊東委員長が挨拶を行い、さっそく議題に入った。

まずは、今年度の第42回海外経済視察に参加しての感想として、「総評としては良かったが、スケジュールがタイトでもう少し視察先を絞っても良い」「宿泊地を2か所にしてゆったりできた反面、訪問先への移動が長時間になった」「都市によって全く違うので、国ではなく、訪問する都市をセレクトする考えもある」等、評価や



伊東委員長

反省点が出された。

次に来年度の第43回海外経済視察について、時期は9月・10月頃を念頭に置き、オセアニア、アジア、欧州の複数コースを示して意見交換が行われた。紛争地域に近いエリアや以前に経済視察で訪問したことのある国や都市は避けたほうが良い等の意見が出され、アジア方面のコース、トルコ・オーストリア・フランスのうち2か国を訪問するコースの行程を組んでみて、費用面やルートに無理がないかなどから絞り込みを行い、次回の第7回交流委員会において、旅行業者選定プロポーザルの実施要件を検討することになった。



海外経済視察の企画プロポーザル検討

～ 第7回交流委員会 ～

第7回交流委員会（伊東潤一郎委員長）を12月19日(木)に事務局会議室において開催した。

委員9人と中沖担当役員が参加し、冒頭、伊東委員長の挨拶の後、さっそく協議に入った。

これまでの議論から、アジア方面のコース、トルコ・オーストリア・フランスのうち2か国を訪問するコースのなかで、費用面やルートに無理のないトルコ・オーストリアとシンガポール・マレーシアの2コースに絞り、行程や具体

的な視察先等について旅行業者から提案を受け、旅行業者を選定する企画プロポーザルを実施することとした。

そして、次回の第8回交流委員会において、旅行業者からのプレゼンテーションを開催することとし、提案にあたっての基本要件や提案を求める事項等を取りまとめた。

最後に、中沖担当役員の挨拶で委員会を締めた。



会員企業から学ぶ

— 第7回企業経営委員会（会員企業訪問） —

11月7日(木)、第7回企業経営委員会（高木悦郎委員長）として、会員企業訪問（㈱建工ホールディングス、㈱スギノマシン）を実施し、24名の委員が参加した。

＜㈱建工ホールディングス＞

午前中は、㈱建工ホールディングスを訪れた。

初めに高木委員長の開会挨拶の後、工場3か所を巡り、設備や生産のプロセスについて詳しい説明を受けた。そのうちの1つ、10月に竣工したばかりの「北陸BASE」では、北陸建工グループで使用する資材や加工後の製品の一元管理を行っており、荷捌きの効率化を図るため、構内をトラックが通り抜けできる壮大なスケールに圧倒された。また、社員の健康推進を目的に本社内に併設された「KENKO GYM」を見学し、充実した設備や施設内から見える立山連峰の見晴らしに感動した。



高木委員長



会議室に戻った一行は酒井社長より会社のビジョンと取り組みについて説明を受けた。

北陸建工グループでは、「特殊鉄鋼構造物の設計・製造を通じて社会に貢献する」を経営理念として掲げており、その理念のもと、「より安全に より正確に より速く より安く」という社是に基づき、品質向上と効率性を追求している。



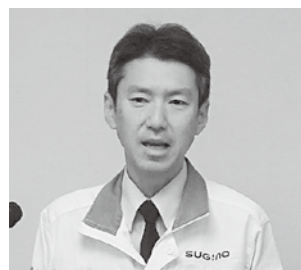
酒井社長

また、特殊構造物の製造には高度なスキルが必要であり、社員教育を重視しており新入社員研修や社内教育機関である「建工塾」を通じて、若手と熟練社員の協力体制を築いている。また、若手社員が中心となる採用活動により、新卒採用率を向上させている。とのことであった。

＜㈱スギノマシン＞

午後は、㈱スギノマシン本社を訪れた。

まず杉野副社長より「地方の中堅 BtoB メーカーが生き残る道としての6つの『超技術』とグローバルニッチリーダー経営」と題し当社について語ってもらった。



杉野副社長

当社では、グローバルニッチリーダー経営をビジョンに掲げており、これは地方である滑川で製品を開発し世界中のニッチ市場でリーダーシップをとる戦略であり、6つの超技術（切る、削る、洗う、磨く、砕く、解す）を発展させ様々な産業分野に対応する製品を提供している。創業から90年近くに渡り安定した経営が出来ている点については突出したエース（部門）はなく、それぞれが平均して勝ち星を積み重ねているからであると述べた。

また、製品の中には過去の技術から派生したものもあり、過去の技術を捨てることなく、時代や顧客のニーズにシーズを合わせることが出来たことにあると説明があった。



更に、開発から販売までの全工程を自社で完結することで、顧客への迅速なフィードバックが可能となり、新たな技術や製品の開発に活用している。また、データドリブン経営を導入し、過去のデータを資産化することで、効率的な営業や製造プロセスを実現している。こうした取り組みを通じて安定した利益体質と顧客満足度向上を図っているとの説明がなされた。

その後、杉野副社長の説明により展示室や工場内を見学した。

2社を見学した後、ラ・ロガンダ・デル・ピットーレ環水公園にて懇親会を行い、企業訪問の余韻に浸りながら一同思いを共有しあった。



社会価値と経済価値の共創で持続的发展を

— 第5回 ESG 経営小委員会 —

第5回 ESG 経営小委員会（松田光司委員長）を11月28日（木）、インテックビル・タワー111にて開催し、委員18名が出席。企業経営における「サステナビリティの取組み」をテーマに、勉強会（第一部：北陸電力の事例）と講演会（第二部：味の素グループの事例）の二部構成で学びを深めた。



松田委員長

第一部では、勉強会（第一部：北陸電力の事例）と講演会（第二部：味の素グループの事例）の二部構成で学びを深めた。

第一部では、北陸電力（株）地域共創部の片山瑞紀氏による勉強会が行われた。同社では、次世代層にエネルギー事情や地球温暖化の現状等への理解・関心を深めてもらうことを目的に、社員らが小・中学校や高校などに出向き行う「出前授業」の展開や、実験動画・バーチャル発電所見学等の様々なコンテンツを提供するウェブサイト「ワンダーラボNEXT」の運営等、様々な次世代層支援を行っている。この日は、『『カーボンニュートラル』ってなんだろう？』と題した小学生向けの授業を体験。こどもたちの反応や今後のコンテンツ拡大等に関する質疑が挙がり、サステナビリティ実現に向けた社会貢献の取組みについて意見が交わされた。



第二部では、講師に味の素（株）執行役常務サステナビリティ・コミュニケーション担当の森島千佳氏を招き、「味の素グループのサステナビリティの取組み」と題し講演いただいた。

森島氏は、まず、味の素グループの「ASV 経営」について解説。“ASV”とは、“Ajinomoto Group Creating Shared Value”＝創業以来一貫した、事業を通じて社会価値と経済価値を共創する取組み」のこと。森島氏は、6つのマテリアリティをもとに“ネガティブインパクトの削減”と“ポジティブインパクトの創出”の双方を追求することでASVを進化させパーパス実現を目指す全体像を提示したうえで、その基盤であり2030・2050年への羅針盤でもあるのが“サステナビリティ”であるとして、その推進に向けた同社グループの組織体制を説明した。

そのうえで、森島氏は、その推進体制のもと展開される同社グループのサステナビリティの具体的取組みを紹介。6つのマテリアリティのうち「持続可能な地球環境の実現」「食



森島 千佳 氏

を通じたウェルビーイングの実現」の2つにおける、特に“ポジティブインパクトの創出”事例として、「アミノ酸バランス飼料を用いたGHG削減」「フードロス削減」「調理の楽しさ・共食による主観的 Well-being への貢献」を取り上げ、それぞれの詳細な取組み内容について解説するとともに、自治体との共創事例として富山県との連携実績についても紹介した。

経営戦略から具体的取組みまで丁寧かつ詳細にご説明いただき、企業経営においてサステナビリティの推進にいかに関与すべきかとの示唆を得る、非常に貴重な機会となった。



留学生の思いを聞く、卒業後も富山へ — TOYAMA KATARAI CAFÉ —

人財活躍委員会（森弘吉委員長）は11月26日（火）、TOYAMA KATARAI CAFÉ（トヤマ カタライ カフェ）を富山大学五福キャンパスにて開催し、会員企業11社から経営者層など15名、富山大学などの留学生22名が参加し、賑わいを見せた。

本事業は、県内在住留学生と会員企業経営者が、リラックスした雰囲気のなかで直接語り合い、相互理解を図り、留学生の就労支援や企業の海外高度人材の活用支援に繋げることを目的として2020年1月に第1回を実施しており、2023年11月の実施に続いて4回目となった。今回は富山県の国際交流員の3名も参加し、多様な顔ぶれでの開催となった。

西田副委員長の司会でイベントが始まり、森委員長が開会の挨拶を行ったのち、講演会に移った。講演会ではまず国際交流員のアリーネ・アケミ・ヤマシタ氏



森委員長



西田副委員長

（ブラジル出身）、アリス・リース氏（アメリカ出身）、ボルデゥリョワ・タチアナ氏（ロシア出身）の3名がそれぞれ、現在の仕事内容や富山（日本）で働く事を選んだ理由、富山の魅力などを紹介した。続いて、富山大学の先輩留学生としてゲン タン ダン氏も大学卒業後の

キャリアパスや仕事内容などを紹介した。富山に来て、富山弁が学んできた日本語と違うことや、母国との文化の違いにショックを受けたことなどが語られ、こう



ダン氏

した発表者の体験談は留学生にとっても共感できるものであり、富山での生活に対する希望や安心感を与えるものとなった。

講演会の後には意見交換会が行われた。経営者や留学生は4つのグループに分かれ、座談会形式で実施。各々の自己紹介の後に「富山の魅力・素晴らしさ」「日本の企業で働くことについて」「今頑張っていること」のテーマを中心に質問しながら、学生の意見や想いを引き出し、時には笑いもあり大いに盛り上がった。

終わりに、共催の富山大学の會澤宣一副学長から閉会の挨拶があり、企業、留学生双方にとって実りの多い一日となった。



會澤副学長



熱心に語りあう様子



ヤマシタ氏

リース氏

タチアナ氏



85名、過去最多の応募 ～ スケッチオーデション ～

●スケッチオーデションとは・・・

富山経済同友会（アントレプレナーシップ小委員会）、とやま未来共創チーム、富山ニュービジネス協議会、富山大学が共催する地域人材の育成・発掘を主目的としたビジネスプランコンテスト。

最大の特徴はコンテスト本番ではなく、新たな事業を志す挑戦者とメンターによる「仲間と学びあい支えあう」ことをコンセプトとして、2025年3月16日（日）の決勝大会に向けてビジネスプランの考え方のインプットと、アイデア

をブラッシュアップする過程を重視した珍しいイベントであり、今回が5回目の開催。

プログラムの総合プロデューサーは昨年引き続き富田 欣和氏（神戸大学 客員教授）が務め、講師には過去大会参加者や決勝大会の審査委員が行う予定である。

参加者とメンターを募集したところ、今回は総勢85名（挑戦者68名、メンター17名）と過去最多の申込みがあった。また、14歳の中学生から60代まで幅広い層が参加している。

■次回以降のスケジュール

回数	日時	会場
Day 5	2025/1/25(土) 13-18 時	富山大学五福キャンパス 都市デザイン学部総合教育棟 35 講義室、36 講義室
Day 6	2025/2/8(土) 13-18 時	富山大学五福キャンパス 共通教育棟 D21、D22 教室
Day 7	2025/3/8(土) 13-18 時	スケッチラボ
Day 8	2025/3/15(土) 13-18 時	富山大学五福キャンパス 黒田講堂
Day 9	2025/3/16(日) 14-17 時	ホテルグランテラス富山

● Day 2（11月9日土）

この日は Day 2 として「やりたいことは全部やりきる」のテーマのもと富山大学にて開催された。

まず特別講義として叡啓大学ソーシャルシステムデザイン学部長の保井俊之氏が登壇した。保井氏は官僚としての立場がありながらも、夜間と週末は大学研究者としての活動していた自身の経験から、「1枚目の名刺の立場で発言することに慣れてしまうと、自由な発言の場でも肩書きを背負った発言になってしまう」と述べ、「肩書きや所属を超えた多様な仲間との協働なしには社会課題の解決は出来ない。是非2枚目の名刺をもって自由な活動を行って欲しい」と語りかけた。

また、寓話「石のスープ」のエピソードを引



保井 俊之 氏

用し、「一見困難なことであっても、仲間と共に協力することで達成することできる、つまり仲間作りが重要である」と説き、「課題を自分事として捉え、正解のない問いを設定して解答を自ら探求する人がこれからの未来を創る」と参加者へ訴えかけた。

そして、22世紀を生き抜く人財は“自ら学び・仕事を創り、ひとと地球の良い未来を自分で創るスキルを持つ人”であると定義し、VUCAとシンギュラリティの時代を生き抜くチェンジメーカーを世に送り出すため叡啓大学を立ち上げた自身の経験を述べ、この場からもチェンジメーカーが生まれてくるよう頑張りたいとエールを送り講演を締めくくった。

特別講義後には富田氏から、日本では「やり抜く力」が美德とされがちであるが、「まずはやってみる、違うと感じたら、別の道に進めばよい」と語りかけ、「やりたいことをやりきる」ために、時には「やめる」決断を下すことも成長への重要なステップになると説いた。

● Day 3〔11月30日(土)〕

Day 3はテーマを「視野を広げる、世界をみる」として開催された。

特別講義にオモテテ(株)代表取締役の高堰うらら氏が登壇し、フェムテック事業の「unfre.(アンフリ)」を立ち上げた経験から、社会課題に向き合う姿勢について語った。



高堰 うらら 氏

事業を立ち上げるまでの事前準備を100円ショップの商品から作り上げた簡易的な試作品からスタートしており、徹底的なユーザー観察からの課題の明確化、アウトプットとして幾度にも渡るプロトタイピング、競合の調査の積み重ねと、プロセスのひとつひとつから「皆が困っている課題なのになぜ解決されないのか」「どうやったら解決できるのか」という問いへの高堰氏の確固たる意思を感じ、課題を突き詰めることにより現在の事業を切り拓いたことに参加者一同感銘を受けた。また、高堰氏の経験に基づ

いた「戦略的に狙って奇跡を起こす」「とにかく考える、そして行動する」という言葉に一同は深く共感していた。

講演後のグループワークでは、富田氏より「やりたいことについては世界で一番詳しくなれ」という言葉のもと、挑戦者たちはその場で自身のプランについて調査と共有を行い「やってみる⇒考える⇒次の行動に移す」のサイクルを体得した。



● Day 4〔12月21日(土)〕

Day 4は「挑戦のハードルを超えていく」をテーマに開催され、特別講義には東京オリンピック100m ハードル代表で(株)Brighter Hurdler 代表取締役の寺田明日香氏が登壇した。



寺田 明日香 氏

寺田氏は幼い頃から運動神経が良く、小学校で陸上を始め、高校から始めたハードルではインターハイ3連覇、世界陸上にも出場するなど順風満帆な陸上人生を歩んでいたが、ケガや周囲のプレッシャーから23歳の若さで一度陸上選手を引退した。その後、大学進学、結婚、出産を経て、7人制ラグビーに挑戦するも、ケガをしてしまい断念。28歳の時に再度陸上競技に復帰し、30歳で東京オリ

ピック出場を果たしている。

この様々な経験、挑戦を通して「自分の特徴を知り、選択の基準を持つこと」「周りの人に頼ること」「チャレンジを恐れないこと」の3つが重要であり、諦めずに挑戦することが大切であると参加者に訴えかけた。

特別講義の後には富田氏からも「可能性の勝負に挑むのがアントレプレナーシップとも言え、行動により Possibility を Probability に変えていくのがアントレプレナーである」と語った。また、AIが当たり前になりつつある今だからこそ、私たち人間は「どんな問いを立てるのか」にこだわる必要があり、答えはAIが出せる時代になるからこそ「問いの質」を高めることが大事であると説いた。その教えを実践するために、挑戦者は自身の構想を語り、メンターからのアドバイスを受けながら問いの答えを具現化していくグループワークを行った。



5 同友会教育担当委員会 第11回交流会

— 大会主管 埼玉で開催 —

第11回 5 経済同友会教育担当委員会交流会を10月31日(木)～11月1日(金)、埼玉県において大会主管で開催。この交流会は、富山、群馬、新潟、栃木県、中部の5同友会の教育を担当する委員会が意見交換や情報交換を行い、連携・交流することを目的に平成25年度から開催されているもの。大会からは、牧田代表幹事と教育問題委員会の土屋委員長はじめ委員7名、教育現場から県立高校の教員4名が参加した。

初日の懇親会では、牧田代表幹事が「本交流会は今回で3巡目。今回は、懇親を深めた上で視察や意見交換をするという設えとした。5同友会それぞれに教育に対する想いがあると思うが、有意義な時間を過ごし、明日は一気通貫のポイントで意見交換してほしい」と開会挨拶。来賓の埼玉経済同友会戸所代表幹事、さいたま市立大宮中等教育学校関田校長先生よりご挨拶を頂戴し、参加者は大いに交流を深めた。最後に、次回主管同友会である群馬経済同友会の坂本代表幹事が挨拶し、懇親会は盛会のうちに終了した。

2日目の午前、さいたま市立大宮中等教育学校を視察。令和6年1月会員定例会において、関田校長先生に学校の理念や取組みについてご講演いただいたが、実際に授業風景を見学し、生徒が自ら考え学ぶ姿、教育目標に向かって先生方が一丸となり指導する姿に感銘を受けた。参加者からは活発に質疑がなされ、大変有意義な視察となった。



授業の様子



午後は情報交換会を実施。各地同友会の代表者より活動報告を行い、大会からは土屋委員長が活動内容を報告した。

意見交換テーマ①

「教師と企業人との交

流の必要性」では、大会が実施した教師と企業人との交流事業を紹介。参加教員は、「企業の方のビジネスに対する思いを知ることで授業の幅が広がり、生徒の深い学びに繋がった」と学校の取組みを通して企業人との交流の必要性を感じた経験を発表した。交流は必要との認識のうえで、各地同友会からは「社会に送り出す側の先生と受入側の企業とで、どんな力が必要かなど共通認識を持つことが必要」などの意見があった。テーマ②「若者が地元に戻る（残す）ために」では、各地の取組みとして群馬経済同友会より「群馬で働く人財を増やすための行動宣言」の紹介や大会人財活躍委員会の取組みの紹介など、活発な意見交換が行われた。最後に、群馬経済同友会の本田委員長、土屋委員長が挨拶し、2日間にわたる交流を締めくくった。

土屋委員長



情勢交換会

選ばれる学校であり続ける

第7回教育問題委員会（高知視察）

11月13日(水)～15日(金)、第7回教育問題委員会（土屋誠委員長）を開催し、委員7名が参加。特色ある学校づくりの先進的取組みを学ぶため高知県を訪れ、3校を視察。授業や施設を見学し、各学校に長く関わっている先生方の教育に対する熱い想いに触れた。

高知市立義務教育学校 土佐山学舎

土佐山学舎は、地域に根ざした教育活動を展開し、外国語教育を核とするキャリア教育や土



佐山学（生活科・総合的な学習の時間）、ICTの利活用に注力している。

個別最適化学習を実現するAI型教材などのICT利活用により、効果的な教育を実践するとともに、教員同士の情報共有や業務改善にもつながっているとのこと。また、6年生の授業見学では、英語で土佐山の魅力をプレゼンする姿を目の当たりにした。①1年生からの積み上

げ、②留学生など様々な方とのコミュニケーション、③伝えること（土佐山学×英語）によって英語力を身につけているという。

地域の豊かな物的・人的資源を学習してほしいという思いから①資質・能力（活動があって学びがないということにならないよう、それによってどんな力をつけるか）、②真正な課題（長時間かけて粘り強く探究できる課題の設定）、③キャリア（様々な出会いを通じて、自分の人生と重ねる）の3つの視点を大切に「土佐山学」を立ち上げ、山地での米作りの良さと課題を追求したり、地域と協働してゆず祭りを開催したりと、本物に触れ、本物に学ぶことで、ふるさとに誇りを持ち、心豊かな児童生徒の育成につなげている。選ばれる学校であり続けるための数々の取組みを学び、質疑も活発に行われた。

高知県立高知国際中学校・高等学校

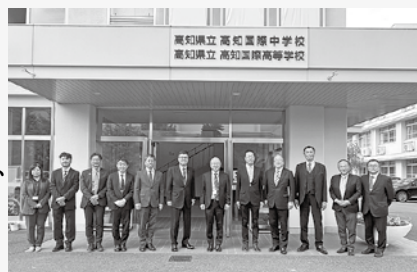
高知国際中学校・高等学校は、中高で国際バカロレア（IB）教育を実践する公立の併設型中高一貫教育校。中学校は1学年80名（3学級）、高校は1学年280名（7学級／グローバル科80名、普通科200名）で編成される。

高知県は人口減少が激しく、中学3年生の人口は10年に1000名の割合で減少。また、私立学校への進学者が多く、約9割の公立高校で定員割れの状況。今年度の入学者選抜では県立高校で定員が埋まったのは高知国際高校のみ。変化に対応することができ、地域でも活躍できるグローバル人材を育成することを目指し、IB導入を決意。昨年度1期生が卒業し、国公立大学や私立大学、海外大学、就職など、探求学習等を通じて関心を持ったことを学ぶため多様な進

路に進んだという。

公立学校であることの強みとして、家庭の経済状況に関わらず、地方にいな

がらIB教育を受けられる点、県下全域に教育の効果を発揮することができる点、教育委員会との連携ができる点を挙げて説明され、学校統合の経緯や教員の確保等も伺うことができ、公立の中高一貫校について知見を深めた。



香美市立大宮小学校

大宮小学校は、公立小学校で初のIB認定校。校区にある香北中学校もIB認定校であり、IBでつなぐ小中一貫教育を実施。IBの初等教育プログラム（PYP）では、“Who we are”, “Where we are in place and time”, “How the world works”, “How we express ourselves”, “How we organize ourselves”, “Sharing the planet”の6つの普遍的なテーマを探究する。例えば、5年生は「歴史は常に未来へ問いかける（Where we are in place and time）」をセントラルアイディアに、社会や国語、道徳の観点から、戦争の背景（原因）や互いの国の立場から見た戦争（視点）、歴史からの教訓（責任）について探究するなど、概念の眼鏡を通して物事を考えることを学んでいた。



保護者有志で結成されたアンバサダーチームが、保護者や地域の方々の理解が深まるよう広報活動を実施するなど、学校と地域、保護者が一体となって子どもたちの成長を見守り支えていた。「子どもたちは地域での体験を通して学び、考え、世界に出たときに地域と比較しながら物事を考えることができるようになる、それがIB教育の良さであり、この地域だからこそできることだ」との熱い想いに触れた。

SDGs

4

質の高い教育を
みんなに



提言案の検討 — 第8回教育問題委員会 —

12月16日(月)、オックスカナルパークホテル富山において、第8回教育問題委員会（土屋誠委員長）を開催し、委員19名が参加した。

土屋委員長は冒頭挨拶の後、今年度の活動を振り返り、「教師と企業人との交流」参加教員の感想や、5 経済同友会教育担当委員会交流会及び高知視察の視察先である特色ある学校の取組み等を報告



土屋委員長

した。

続けて、提言案について説明し、忌憚のない意見を求めた。出席した委員からは、使用されている言葉の定義に関する疑問や、教育現場の現状を踏まえた意見などが出され、提言案のブラッシュアップに向けた活発な意見交換が行われた。

最後に、今年度の活動を踏まえ、次年度の「教師と企業人との交流」についても意見を求め、年内の活動を締めくくった。





「余韻を楽しむ」まちづくりを考える

文化・スポーツ委員会、地域創生委員会（合同委員会）

12月11日(水)、第9回文化・スポーツ委員会（武内孝憲委員長）と第6回地域創生委員会（池田治郎委員長）をオークスカナルパークホテル富山で合同開催し、55名の委員が参加した。講演会とパネルディスカッションの二部構成で、富山の文化とまちづくりについて考えた。

委員会の冒頭、武内委員長は、今回の委員会の趣旨について「委員会活動を通じ、『余韻都市』という本を紹介していただき感銘を受けた。文化・スポーツを考えるにあたり、まちづくりが大変重要であると感じ、まちづくりをテーマに活動している地域創生委員会にお声がけした。富山のまちづくりについて共に考える機会としたい」と説明した。



武内委員長

第1部は、東京大学大学院特任教授の中村文彦氏に、「余韻都市と公共交通の未来」と題し、ご講演をいただいた。まず、中村氏は、コロナ後の外出が減少していることに触れ、「健康を保つためには外出（移動）が不可欠であり、都市の中心部が元気で魅力的であることが重要。公共交通はその活性化を支える役割を持っている。移動を“義務的”ではなく、楽しく、余裕のある活動にすることが大切」と話した。また、集まる場所（広場）や公共空間が都市の魅力に直結していることに触れ、実際の事例として旭川やブラジル、ソウルなどでの歩行者天国や公共空間を紹介した。「公共交通を使うことで、コンサートの後、時間を気にせずゆっくり過ごすことができる。お店も増えて行けばよい。地方都市でも、地域に根ざした安全かつ安心な移動の仕組みが必要。街中に楽しいことがある住民が誇れるまちづくりを進めてほしい」と提案した。

第2部はパネルディスカッションを実施。パネリストに、中村特任教授、富山市前市長の森雅志氏、富山市民文化事業団総務企画課長の福岡美奈子氏を迎え、富山大学の猪井博登准教授

にファシリテーターをお願いし、富山のまちなかの文化的機能を活かし、都市の活性化を促進するための議論を行っていただいた。

中村氏：「富山は大好きなまちで何度も来ている。富山は公共交通を始め、文化施設、イベントも整っている。観劇の後に楽しむ場がどれだけあるのか、人々がどのように過ご



中村 文彦 氏

しているかといったことを考え、これから場を作っていけばいいと思う。車で来ることを前提とした場所に劇場等をつくるのはもったいない」

猪井氏：「富山は、文化施設も日本で2番目に多いことや公共交通の整備がされて、素地が整っている。芸術文化を楽しんだ後、どう過ごしているか。お店が増えるなど経済同友会のみなさんの協力が地域活性に不可欠だと思う」



猪井 博登 氏

森 氏：「オーバード・ホールは、車で来る人が多い。終演後、駐車場の精算機の前には行列ができるが、公共交通で来ていただければ、幕間やその後にお酒を楽しむことができる。



森 雅志 氏

中ホールの設置には、効率的な国の起債を活用した。文化性と効率的な財源をどう作っていくかは、都市経営で大事なことだ」

福岡氏：「劇場法改正後、多様な人々が集ま



福岡 美奈子 氏

り共生できる場として地域密着型の劇場作りを進めている。試験的に、演者、観客、監督等、劇場スタッフが公演終了後に集える企画を行った。余韻を楽しみ語り合う場を通して、景色も変わっていくのでは」

最後に、森氏は、「公共交通と文化性を絡めたまちづくりは、住民の生活の質を高め結果としてシビックプライドの向上につながる事が大事な目標だろうと思う」と語り、中村氏は、「住民の活動を公共交通が支える。そして時間を気にせずゆっくり過ごせるようになる。このこと

により富山が変わっていくことを期待している」と述べ、富山のまちの発展にエールを送った。



麦野代表幹事が経済団団長として参加 — 富山県インド経済訪問団 —

12月19日(木)から24日(火)にかけて、「富山県インド経済訪問団（団長：新田富山県知事）」に、麦野代表幹事が経済団団長として参加した。今回の訪問は、急成長を遂げるインドとの経済交流の促進、県内企業の海外展開支援などを目的に、チェンナイ、アンドラ・プラデシュ州（AP州）、デリーを巡る行程で、現地合流を含め29人が参加した。

チェンナイでは、在チェンナイ日本国総領事とJETRO チェンナイ所長から現地情勢のブリーフィング、タミルナドゥ州工業相との会談、現地企業との交流セミナーなどがあり、その後、経済団は本団と別れ、陸路でAP州最大規模のスリシティ工業団地を視察、チェンナイ周辺進出の日系企業との情報交換会を行った。



タミルナドゥ州工業大臣との会談



スリシティ工業団地



デリー近郊「NURA(富士フィルム)」

また、デリーでは、日系企業やインドの経済団体が参加した情報交換会のほか、富士フィルムが取り組む健康診断施設や既存の工場を活用したデンソーの日本式ものづくり学校（JIM）など日系企業の取組みを視察し、操業・雇用環境などを確認した。



幸せを実感できる組織づくりを

—第3回ウェルビーイング小委員会—

11月12日(火)、富山電気ビルディングにおいて第3回ウェルビーイング小委員会（東出悦子委員長）を開催し、委員20名らが出席した。中小企業の Well-being な組織づくりを支援する活動をされている、山川泰介氏、衣川由希子氏を講師に招き、「Well-being デザインワークショップ体験」と題してワークショップを行い、Well-being 経営について知見を深めた。

はじめに、世界的に Well-being 度が高い企業に、より投資が集まる流れができてきていること等に触れ、Well-being が組織に必要な理由を①右肩上がりの時代の終焉（マインドの変化）、②先行きが読めない時代（求められる能力の変化）、③求められる多様性（個人技よりチーム力）の3つを挙げて説明。また、“健康経営”は、「従業員の健康を経営指標と捉え、



東出委員長



山川 泰介 氏

健康管理と増進に取り組むこと」であり、メンタルヘルスや健康促進を解決するものであることに対し、“Well-being 経営”は、「個人の働きがいや生きがいなども意識し、従業員個人と組織のそれぞれが幸せを実感できる状況になること」であり、エンゲージメントやモチベーション、生産性の向上を解決するものであるなどの違いを示した。



衣川 由希子 氏

ワークショップでは、正解はないとしたうえで、①自社及び自身の現状、②自社のイメージを一言で表現、③幸せな会社とは、④幸せな会社を実現するための会社としての取り組みアイデア、⑤幸せな会社を実現するための自身の取り組みについて、グループで活発に意見を出し合い、Well-being な組織実現に向けた具体的な方策を考える有意義な機会となった。



ワークショップの様子



— 課外授業講師派遣 —

第8回 小矢部市立蟹谷中学校

11月15日(金)、片山浩一氏（片山商事(株)代表取締役）が小矢部市立蟹谷中学校で生徒93名、保護者46名に対し「働くことの心構え」と題して課外授業を行った。

片山代表は、幼いころから親戚の工務店の業務の手伝いをした経験が現在も自分自身の力になっていることや、中学時代に沖縄音楽を聴いて思い立ち、沖縄に一人旅をした経験について語り、「いろいろなことに飛び込んでいく、チャレンジ精神をもってほしい」と説いた。

さらに、「高地で育てられたイランのバラはよい香りがする。過酷な環境で育ったバラこそ、品質がよい。私たち人間も、苦勞することで成長する」という現地の人々の話を例に、苦勞することもやり遂げることで、自分の成長につながるということを語った。

また、美容の仕事で使用するために、パキスタンの透明な岩塩を手に入れる過程で、様々な人々との関わりが生まれた経験について話し、「真剣に

物事を追求している人には、追求している人が集まり、たくさんつながりができる。よいものにこだわり、よりよいものを追求していくことはとても大切である」と述べた。そして、「仕事をするときは、人と人との関わりが大切で、相手に



片山 浩一 氏

理解してもらえよう相手のことをよく知り、誠心誠意自分の思いを伝えれば、きっと相手に届く」と話した。

最後に、「学校の勉強が得意ではなかったとしても、集中力が高く、好きなことを追求して成果を上げている人たちがどの業界にもいる。これから大きく変化していく社会を生きるために、柔軟に対応できる力も育みながら、好きなことを続けてほしい」と強調して講演を締めくくった。

第9回 舟橋村立舟橋中学校

11月20日(水)、高瀬幸忠氏(株スカイインテック顧問)が舟橋村立舟橋中学校で1学年35名に対し「私の経験と働くということ」と題して課外授業を行った。

高瀬顧問は、「就職するまで」と「就職してから」の2つのステージで経験・見聞したことをクイズも交えて話した。

幼少期は親の転勤で国内を転々とし、各地で過ごした体験や文化、自然の美しさ等に触れる機会に恵まれたことや、親のアメリカ転勤に同行せず国内に残った経験が心の成長に大きく影響したと語った。「人生において幸運の種は万人に降り注いでいるが、それを掴めるのは情熱をもって挑戦する人である」と述べ、「努力の種まかねば夢の花は咲かない」という言葉を紹介し、「Just Try! とにかくやってみよう」と挑戦することの大切さを伝えた。

社会では「ご縁に感謝」、「一期一会」の心構えで人と向き合うこと、その縁をさらに拡げ繋げるために自ら発信することが重要と述べた。また、「働くとはどういうことか」と問いかけ、生徒全員の発言に耳を傾けた後「自分の価値を

世に問う」そんな姿勢を持ち続けることが大切だということの中尾哲雄氏の考えを紹介した。

人は環境に対応して「変わる」ことで生き延びてきたが、『「変わる』という受動的な考えだけでなく、能動的に

『変える』ことで、よりよい方向へ進むこともある。まさに『Just Try!』という気持ちで自ら『変える』ことにも挑戦してほしい」と説いた。

最後に、「人は『選択』によって成長する。人生には多くの選択場面があり、それぞれ覚悟をもって選択することで人は成長できる。“山を移す”という言葉のように、毎日少しずつでも努力を重ねていけば大きな成果につながる。」と述べ、生徒に「努力の大切さを信じて、これからのいろいろなことに取り組んでほしい」とエールを送り講演を締めくくった。



高瀬 幸忠 氏

第10回 富山市立速星中学校

11月29日(金)、福崎秀樹氏(株フクール代表取締役)が富山市立速星中学校で1学年293名に「A I時代に生きるチカラを考える」と題して課外授業を行った。

福崎代表は、皆で対話して考えることを目的とし、はじめに社長のイメージを尋ねた。生徒からは「偉そう」「お金持ち」「頭がよさそう」と声が挙がり、「社長のイメージを覆したい」とメッセージを届けた。

自身が働く目的を「社員一人一人の人生を輝かせるため」と定義し、社員が幸せになるためにはIT・デジタル(必要なこと)と、人や組織(人間力)のどちらも大切だと語った。

続いて、4つの「今」と題して「思考が不要」「変化が激しい」「確かなものが何もない」「正解を誰も知らない」時代だと述べた。この100年の時代の変化を「5,000万人に普及するまで、電話は75年、ポケモンGOは1週間」と、電話と携帯アプリの具体例を挙げて説明した。これほど変化が激しい世の中では、既存の「正解」が通用せず、大人も何が正しいのか判断がつか

ない。子どもや後輩に普遍的だと伝えていくことも限定され、必要であればネット検索で事足りる。そんな未来でどんな人が、どんな力が必要になるのか、生徒に迫った。

協働力や創造力など、人間だけが持

っている力(人間力)を育むことが必要としたうえで、「正解はないが、少なくともスマートフォンからの情報だけでは人間力は高まらず、身体を使って自ら経験することが大切で、自分で考え決断して行動することの繰り返しが生徒だ」と述べた。

最後に、今の中学生に「変化に敏感に対応しつつ、周囲の友達を大切にして過ごしてほしい」と訴えた。社会的存在である人間として、協働的、周囲との助け合いの中に幸せを見つけて欲しいと想いを述べて、講演を締めくくった。



福崎 秀樹 氏

「ものづくり企業の人づくりと組織づくり」

富山県中学校長会研究大会において記念講演

令和6年11月6日(水)、伊東潤一郎氏（アイティオ㈱代表取締役社長）が富山県中学校長会研究大会において、県内全中学校長76名を対象に「ものづくり企業の人づくりと組織づくり」と題して講演を行った。

伊東社長はまず、自身が3月30日の早生まれであり、同学年の中でもあらゆる面で大きな差を感じた経験から、物事の違いや差を、和・差ではなく積や商で捉える、つまり1歳と2歳の差は1歳という捉え方ではなく、10歳と20歳の違いと同じであるという捉え方をする必要があると語った。

そして、ものづくりを行う上で重要な点として、「自社の金型を製作する上で求められる技術や品質、すなわち“製品形状の実現性”“製品形状の安定性”“段取り性”“ライフ”“メンテナンス”“価格”“安全性”の要素は、どれか1つでもゼロであれば全体がゼロになる。その結果、商品が売れずに次回から仕事がなくなってしまう。積算の視点で見ることの重要性を社員にも説いている」と

述べた。

また、子どもたちが生きていくために必要な力として、①人間力（優しさ・逞しさ）、②学力（知識・知恵）、③体力（健康・運動）の3つを挙げ、この3つも積であると述べた。続けて、「何か問題が起きたとき、本人が気付いた以上の行動はできない。『何かおかしい』という気付きと行動を促してほしい。気付くためには、“素直になる”“好奇心を持つ”“役を果たす”“好きになる・本気になる”“成長を意識する（変化する）”を意識した行動が大切である」と説いた。

最後に、「成功の反対は失敗ではない、何もしないことだ」「人生には与えたものが返ってくる」「与えられた課題は『先送り』できるが、『逃げ切る』ことは出来ない」という自身が大事にしている示唆に富んだ言葉を述べ講演を締めくくった。



伊東潤一郎氏



稲田祐治氏

「ミドルリーダーとしての自覚、役割～働きやすい環境づくり～」

富山県中堅教諭等資質向上研修にて講演

令和6年11月20日(水)、稲田祐治氏（㈱ミライノ交通観光ラボ代表取締役）が、富山県中堅教諭等資質向上研修において、11年目の教員196名を対象に、「ミドルリーダーとしての自覚、役割～働きやすい環境づくり～」と題して講演を行った。

稲田代表は「学校には、教員の資質向上と優秀な人材の確保が求められており、そのためには、教員が自己研鑽する時間や、充実した生活を送る余裕を持てるようにして教職の魅力を向上させる必要があるが、学校の負担増、授業以外の様々な業務があることなどから実現できていない。教員を多忙化から解放しなければならない。」と現状と課題を述べた。

これらの課題を解決するために、①適切な役割分担、外部人材の活用などによる教育に専念できる環境づくり、②教育活動が校長や教頭による全体統括の下、組織の一体的な活動として行われること、③業務の一部外部委託などを検討するこ

とが必要であるとし、ミドルリーダーが果たす役割の大きさを説いた。

ミドルリーダーとは、“戦略的役割を果たし得る教職員”を指し、①メンター（同僚教職員の学びを支援）、②マネージャー（課題解決に向けた協働体制の構築）、③リーダー（経営ビジョンの共有化・実践化）の3つの役割を果たすことで世代間・職制間に垣根を作らず、チーム化による学校経営に繋がると語った。

また、学校が取り組むべき課題として、ミドルリーダーの育成や教員の働き方改革を挙げ、改革に向けては男女の働き方の違いにも踏み込み、長時間労働の見直しや勤務時間の適正化、柔軟な働き方がしやすい環境づくりなどに取り組む必要性があり、国や教育委員会、家庭の支えが不可欠だと語った。

最後に、「今後の働き方が誰一人取り残さず、先生方や家族の皆さんのウェルビーイングにつながっていくことを期待する」と講演を締めくくった。



富山で働く魅力を発信することで気づいたこと

井 深 亜 希

(三井住友海上火災保険株式会社 富山支店長)

三井住友海上にエリア限定社員として入社し、今年で32年目になります。これまでエリア外にチャレンジする機会はありませんでしたが、「好きな場所“北陸”で地元に関わりたい仕事ができる」という思いは一貫して変わっていませんでした。

そんな思いを揺るがす出来事が今年度、起こったのです。それは当社の人事制度改革の1つである「社内異動の公募制」です。社員一人ひとりが望む自分らしい生き方を“自ら選べる”会社の実現に向けて、管理職を含む全国のポストへの異動に何度でもチャレンジすることが可能となります。ポストがあれば、住みたい場所・やりたい仕事を自ら選び、チャレンジすることができるのです。また見方を変えれば「富山に住みたい、働きたいと思う社員」を当地に受け入れることができるのです。2025年4月スタートに向け、当支店も早速募集ポストを設置することにしました。募集にあたり魅力的な支店・地域を打ち出すために業務に関わる内容だけでなく、職場環境や勤務地周辺の“推し”情報を積極的にPRする必要があります。業務内容以外ですと、「役職に関わらず自分の意見が言い合える職場」「富山駅側で通勤・移動の利便性が高い」「海と山が近く食べ物が美味しい」等々……。考えれば考えるほど、このエリアに生まれ、32年の大半の期間、北陸3県に関わる仕事をしてきた中で、地域の良さを肌で感じているもののアピール力の弱さに気づかされました。同時に私はこの地域の本当の良さを十分に理解していないのではないか、日々の業務に追われ目の前のことに集中するあまり、地域が持つ独自の魅力に目を向けられていないのではないかと。

私自身、入社来の思いである“地元に関わりたい”＝地域社会やその文化、ニーズに深く関わる”仕事ができる”に近づくことができていたのか。今一度「富山の魅力」を内からでなく外から確認するため、ChatGPTに訊いてみました。「私は首都圏に住んでいます。富山の魅力は?」「働く上での魅力は?」「子育てのメリットは?」「楽しめるレジャーは?」等々……。いくつも質問を重ねてみました。豊かな自然環境、生活コスト、地域密着型の企業、産業の多様性、働きやすい環境、コミュニティの温かさ、教育環境の充実、子育て支援制度の充実、自然や文化を活かした多様なレジャー等様々な観点で細やかな回答が返ってきました。自然と文化、産業、人に恵まれた環境で安定した生活を送りながらキャリアを築いていくには、富山県は良い選択肢となる場所であることを再確認できました。またこの地で勤務していることを誇らしく感じました。結果、全国から複数名の応募があり、今後に向けた手応えをつかむことができました。

「社内異動の公募制」に伴い、短期間で他部署を経験できる「社内トレニー」も活発化しています。当支店でも受け入れを行い、支店メンバーが積極的に関与しています。地域の良さを知り、課題を知り、当社の事業を通じて課題解決に向けて行動し続けていくことで、富山で働く魅力をアピールすることができ、採用や人の呼び込みにつながると考えます。また魅力を伝える活動を通じて、気づいたら自分自身が富山や当社で働くことに誇りを感じ、自然とエンゲージメントが上がっていくのではないかと最近思い始めています。

(次号は三井物産株式会社 北陸支社長の
太田俊也 様です。)

活動報告

11月1日～12月31日

○幹事会・定例会等

開催日時・場所	内 容	出席者
12月3日(火) 16:00～19:40 ANA クラウンプラザ ホテル富山	海外経済視察報告会・12月会員定例会・年末懇親会 ゲスト：室井 滋 氏、鍋田 恭子 氏、友井 賢太郎 氏	約190名

○委員会

開催日時・場所	委員会名	内 容	出席者
11月5日(火) 17:00～20:00 事務局会議室	文化スポーツ委員会 第9回正副委員長会議	・今後の委員会活動について ・実績報告書について	8名
11月7日(木)	第7回企業経営委員会	会員企業訪問（㈱建工ホールディングス、㈱スギノマシン）	24名
11月12日(火) 16:00～19:40 富山電気ビルディング	第3回ウェルビー イング小委員会	講師：山川 泰介 氏 衣川 由希子 氏	20名
11月13日(水) ～15日(金) 高知市・香美市	第7回教育問題委員会 （県外視察）	視察先 ・高知市立義務教育学校 土佐山学舎 ・高知県立高知国際中学校・高等学校 ・香美市立大宮小学校	7名
11月21日(木) 12:00～13:30 事務局会議室	教育問題委員会 第5回正副委員長会議	・活動報告 ・提言案について ・今後の事業について	9名
11月21日(木) 17:00～20:30 魚津商工会議所	第5回企画委員会	・次年度以降の委員会編成の方向性 について	6名
11月26日(火) 18:30～20:30 富山大学五福キャンパス	人財活躍委員会	TOYMA KATARAI CAFE	11名
11月28日(木) 17:00～19:30 インテックビル	第5回E S G 経営 小委員会	テーマ：企業経営におけるサステナビ リティの取組みについて （第一部） 講師：北陸電力(株)地域共創部 片山 瑞紀 氏 （第二部） 講師：味の素(株) 執行役常務 サステナビリティ・ コミュニケーション担当 森島 千佳 氏	18名
12月11日(水) 17:00～20:40 オークスカナルパーク ホテル富山	第9回文化スポーツ 委員会 第6回地域創生委員会 （合同開催）	【講演会】 演題「余韻都市と公共交通の未来」 講師：東京大学大学院特任教授 中村 文彦 氏 【パネルディスカッション】 テーマ「都市の文化的創造的機能とま ちづくり」 パネリスト：中村 文彦 氏 富山市民プラザ取締役会長 森 雅志 氏 富山市民文化事業団 総務企画課長 福岡 美奈子 氏 ファシリテーター：富山大学准教授 猪井 博登 氏	55名

開催日時・場所	委員会名	内 容	出席者
12月13日(金) 10:00～13:00 TOYAMA SAKURA ビル	地域創生委員会 広島経済同友会まちづ くり委員会との意見交 換会・交流会	・富山市の「公共交通を軸とした コンパクトなまちづくりについて」	6名
12月16日(月) 17:00～19:40 オークスカナルパーク ホテル富山	第8回教育問題委員会	・活動報告 ・提言案について ・今後の事業について	19名
12月19日(木) 13:00～15:00 事務局会議室	第7回交流委員会	・第43回海外経済視察の訪問先等につ いて	10名
12月20日(金) 11:00～11:40 事務局会議室	人財活躍委員会 第5回正副委員長会議	・提言案について	7名
12月25日(水) 14:00～15:30 事務局会議室	地域創生委員会 第8回正副委員長会議	・提言書について	8名

○課外授業講師派遣

開催日	学 校	対 象	講 師
11月6日(水)	富山県中学校長会研究大会	中学校長 76名	伊東 潤一郎 氏
11月15日(金)	小矢部市立蟹谷中学校	全学年 96名	片山 浩一 氏
11月20日(水)	舟橋村立舟橋中学校	1学年 35名	高瀬 幸忠 氏
11月20日(水)	富山県中堅教諭等資質向上研修	11年目教諭 196名	稲田 祐治 氏
11月29日(金)	富山市立速星中学校	1学年 293名	福崎 秀樹 氏

○同友会諸会合

開催日	内 容	場 所	出席者
11月8日(金)	第32回 経済同友会中央日本地区会議 (主管：山梨経済同友会)	山梨県甲府市	麦野代表幹事 他2名
11月25日(月)	2024年度全国経済同友会代表幹事円卓会議	兵庫県神戸市	麦野代表幹事 牧田代表幹事

○その他の会合

開催日	内 容	場 所	出席者
11月3日(日)	富山マラソン2024 開会式	高岡市役所前	麦野代表幹事
11月14日(木)	北陸新幹線（敦賀・大阪間）建設促進総決起 大会	ザ・キャピトル ホテル東急	麦野代表幹事
11月22日(金)	第2回 富山県高付加価値旅行者向けホテル 誘致検討委員会	富山県民会館	麦野代表幹事
11月22日(金)	富山県中小企業の振興と人材の育成等に関 する県民会議	富山県民会館	牧田代表幹事
11月22日(金)	データサイエンス寄附講座のご紹介	ホテルグラン テラス富山	会員 26名
11月28日(木)	第1回 ボールシティとやまプロジェクト 実行委員会	富山市役所	麦野代表幹事
12月19日(木) ～24日(火)	富山県インド経済訪問団	インド	麦野代表幹事

「まちづくり」を通して再び交流 — 広島まちづくり委員会と地域創生委員会 —

12月13日(金)、広島経済同友会まちづくり委員会の椋田委員長（広島電鉄(株)代表取締役会長）ら6名の視察団が富山市を訪問。まちづくりに関する市内視察を通し、地域創生委員会の池田治郎委員長ら6名と交流した。

広島経済同友会まちづくり委員会とは、



昨年10月、地域創生委員会の広島視察において多大な協力をいただき交流した経緯がある。今回の富山視察は、その際「次は富山のまちづくり視察を」と約したことが実現したもの。富山市 活力都市創造部 都市計画課の協力のもと、TOYAMA SAKURA ビルにて、富山市の「公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり」について説明を受け、市と両

会で意見を交わした。

その後、会場を岩瀬の「磯料理 松月」に移し昼食交流会を実施。最初に椋田委員長より、視察受入れに対する御礼とともに互いのまちづくりの取組みの深化に向けた力強い言葉があった後、池田委員長より、昨年度の視察協力へのあらためての感謝とともに富山の地での再会を歓迎する言葉があり、交流がスタートした。富山の海の幸に舌鼓を打ちつつ賑やかに会話が弾む中、まちづくりの取組み状況等について活発な情報交換が行われ、互いの活動にとって非常に有益な、学びの多い再びの交流の機会となった。



産学連携で地域の課題解決を — データサイエンス寄附講座のご紹介 —

11月22日(金)、ホテルグランテラス富山において「データサイエンス寄附講座のご紹介」を実施。富山大学から依頼を受け、当会会員の皆様を対象に、牧田和樹代表幹事・齋藤滋富山大学長のもと合同で開催したもので、会員ら34名が参加した。

「データサイエンス寄附講座」は、富山大学経済学部が、日本電気(株)との組織的連携協力に基づき開設しており、各専門分野の教授・学生らがデータサイエンスを活用して企業等から寄せられた地域課題を分析することで、富山の地方創生を促進する商品やサービスを創出することを目的としている。

当日は、経済学部の金山義男教授から本

寄附講座の概要を説明したうえで、実際に参加した企業のうち「アルビス(株)」「NiX JAPAN(株)」の2社の事例を紹介。それぞれ担当した経済学部の馬駿教授、都市デザイン学部の堀田裕弘教授から研究内容の詳細を説明した後、企業側からも、アルビス(株)執行役員管理本部本部長の藤井秀亮氏、NiX JAPAN(株)DX推進部次長の羽黒厚志氏が登壇し、パネルディスカッション形式で本寄附講座の意義やメリットを訴えた。



2025年前半の景気見通しは「横ばい状態が続く」

企業経営委員会（高木悦郎委員長）は、昨年12月に「第30回富山景気定点観測アンケート」を実施した。2025年前半の景気見通しや各社の業績予想、継続的な賃上げ、BCP計画の策定について190社（回答率45.5%）から回答が寄せられた。

主 な 項 目

◆2025年前半（1～6月）の景気見通しは？ 緩やかに拡大する 38% 横ばい状態が続く 45% 緩やかに後退する 15%	◆2024年10-12月期の売上高（予想）は？ 増収 40% 横ばい 43% 減収 17% ◆2024年10-12月期の経常利益（予想）は？ 増益 33% 横ばい 43% 減益 24%
◆現状の雇用人員は？ 過剰である 3% 適正である 35% 不足している 62%	◆2024年度の設備投資（前年度比）は？ 増額 39% 前年度並み 48% 減額 13%
◆2025年度の賃上げは？ 実施予定 66% 実施予定はない 6% まだ決めていない 27%	◆BCP計画の策定状況は？ 策定済み 47% 策定していないが、今後策定予定 37% 策定する予定はない 16%

今後の予定

開催日	対 象	行 事	場 所
1月27日(月)	全会員	1月会員定例会（地域創生委員会主管） 講師：福島国際研究教育機構 理事長 山崎 光悦 氏 演題：「福島国際研究教育機構の創造的復興への挑戦」	オークスカナルパーク ホテル富山
2月16日(日)	全会員	同友会の日「富山グラウジーズ」	富山市総合体育館
3月5日(水)	幹事以上	3月幹事会	オークスカナルパーク ホテル富山
3月5日(水)	全会員	3月会員定例会（人財活躍委員会主管） 講師：日本 IBM 株式会社 代表取締役社長 執行役員 山口 明夫 氏	オークスカナルパーク ホテル富山
4月9日(水)	幹事以上	4月幹事会	オークスカナルパーク ホテル富山
4月17日(木) ～18日(金)	全会員	第37回全国経済同友会セミナー（広島経済同友会主管）	広島市内
4月24日(木)	全会員	2025年度定時総会・懇親会	オークスカナルパーク ホテル富山

〔表紙写真〕

第7回企業経営委員会（会員企業訪問）

11月7日(火)、委員24名が(株)建工ホールディングスと(株)スギノマシンを訪問。

写真は、(株)スギノマシン展示室前で撮影した集合写真。2社を一日で訪問し、充実した学びの機会となった。

発 行 所

富山経済同友会

富山市牛島新町5番5号 インテックビル4階

電 話 (076) 444-0660

F A X (076) 444-0661

e-mail: doyukai@po.hitwave.or.jp

https://www.doyukai.org/



出会った頃の写真です。髪はふさふさでした。



下手くそながらもかつ飛ばしていました



エッセイを書いて気がついた、富山との長い縁

トワードローンサービス株式会社 代表取締役

相馬 淳一

私の人生にとって、富山は切っても切り離せない存在です。その始まりは、大学の入学式のあの日。講堂を出た私に声をかけてくれたのは、競技スキーのクラブの先輩、S・Iさんでした。誘いのままにそのクラブに入りスキーという新しい世界に足を踏み入れることになったのです。

スキーの腕前はといえば、ボーゲンからスタートしたほどですので、推して知るべし。しかし、当時のスキー板は2メートル近くある代物で、雪山を疾走する爽快感には自信がありました。

そして、そのスキーが私に人生の伴侶をもたらしました。志賀高原をホームコースにしていたクラブ活動中、大学4年生の時に妻と出会ったのです。彼女は高校時代のハンドボール部の後輩で、名前は知っていましたが、年齢が三つ離れていたため直接会う機会はありませんでした。偶然、彼女が高校の仲間と我々の合宿所から数軒隣のホテルに泊まっていて、初めて会うことになりました。それが私たちの始まりでした。

大学卒業後も「私をスキーに連れて行って」さながらの軽い気持ちで楽しんでいた私たちも、気づけば孫が6人もいるおじいちゃん、おばあちゃんになりました。

ところで、そのスキークラブに誘ってくれたS・Iさんは、偶然にも富山のご出身でした。私が初めて富山を訪れたのは、1978年志賀高原からの帰り道、先輩のご実家がある高岡に立ち寄った時です。その後、私は先輩を追いかけるように日立製作所に就職し、今も縁あって東京で一緒に働いています、もしあの日、先輩が私に声をかけてくれなかったら、妻とも出会うことはなかったでしょう。人生の出会いとは、本当に一つひとつの積み重ねなのだと感じます。

2014年、単身赴任で再び富山へ。これを機にスキーを再開しましたが、2016年の白馬での大転倒では、鎖骨と肋骨を10本近く折るという大怪我を負いました。赤十字病院でプレートを入れる手術を受けましたが、半年後にゴルフ中に再びプレートごと鎖骨を折り、再手術となる始末。入院中には妻に介護の練習をさせる羽目になり、申し訳ない思いでいっぱいでした。

2020年には日立を卒業し一度富山を離れましたが、結局また戻ってきました。富山が好きで、今ではドローンの会社を立ち上げ、東京と富山を行き来する生活を送っています。

富山では写真撮影にも没頭しました。北陸電力の役員応接室に飾られている富山の街並みの先にそびえる堂々たる立山連峰の風景。実は、大変光栄なことに、私が撮影したものなのです。この写真は、冬になると、富山駅の新幹線改札口に入ってすぐ右手にも飾られます。今でも海外からの観光客が「Amazing Toyama」の額とともに私の写真を撮る姿や、立山連峰が映し出すその壮大さを改めて感じる方々の姿を想像すると、写真に込めた思いがさらに深まり、富山の魅力を伝えられていることを誇りに思います。



富山駅に飾られている写真

すべての始まりは、大学の入学式。あの日が私の人生のターニングポイントだったのだと、このエッセイを書き初めて気がついた次第でした。

I Love Toyama.

Jack Soma